

2010年12月3日(金)

## いまどき 若手教育

10月に静岡県で開いた新制度「K塾」のキックオフミーティング。選ばれた9人の若手社員は会

## ユニバーサルミュージック



静岡県で開いた合宿では企業の将来像についてのビジョンを共有した

K塾のカリキュラム	
10年10月	キックオフ合宿で業界が抱える問題共有
11月	ビジネス書籍や社内外の意見を通じてテーマ発掘
12月～11年1月	テーマの仮説を検証
2月	リーダーシップ育成の合宿
2～3月	プレゼンの練習
4月	小池一彦社長にプレゼン

新しい事業プロジェクトが発足し、研修生自身への推進役になる。

現在、メンバーは毎週1回程度、終業後に集まってプランづくりに取り組んでいる。コンテンツの制作現場の社員を呼んで話を聞いたり、同業他社の情報収集、他の業界との交流などを通じてプランを練る。

サポート役を担う人事グループの斎藤洋子マネージャーが他の部門との橋渡しなどで助け舟を出す場合もあるが、情報収集や相談相手の手当てはメンバーが自力でするのが原則だ。

経営やマーケティングの理論習得も研修のテーマ。コトラーやドラッカーらのビジネス書を全員に配り、CD制作への活用などについて意見をまとめさせるといった課題を課す。斎藤氏は「ヒット作品の分析などで、ノウハウを身につけてもらいたい」と話す。

# 事業プランづくり挑戦

「今のやり方ではCDは売れなくなる」「伸びていた音楽配信も踊り場にさしかかっている」

ユニバーサルミュージックは今年、社員育成の新制度を導入した。販売担当の優秀な若手を選抜し事業プランをつくらせる。課題は市場が縮小するCD販売を補うモデルの創出だ。マーケティングなどの理論習得のほか、制作部門との連携も促し、企画、調整といった経営に必要な資質を養成。会社の生き残りを担う人材を育てる。

社長の厳しい現状について認識を共有した。メンバーは入社3～4年目で、CD販売やコンテナツ配信、小売店の支援などを担う販売部門の出身。100人以上いる部門の中から、とくに能力の高い若手を選んだと

K塾のKは小池一彦社長を立ち上げた。長年のインシヤルで、その名の通り社長の発案による肝煎りの制度だ。小池社長によると「CD市場は毎年10%ずつ縮小し10年でゼロになる」。厳し

「K塾は来年以降も年間プロジェクトとして続ける方針。若手社員が日々の業務を経営の視点で考えるようになれば、経験と勘にたよりがちだった現場の意識改革にもつながるだろう。レコードが主力だった時代からの古い体質に新風を吹き込めるか。まずは来春までの1期生の成果が試金石になる。」(世瀬周一郎)